

近隣の川が氾濫する可能性が高まり、避難（高等学校）

避難訓練

高等学校・全学年 特別活動（学校行事）

1 題材名

荒川及び隅田川の氾濫を想定した避難訓練

2 ねらい

- (1) 高層階への避難についての理解を深めることで、学校以外での発災時に判断できる力を育成する。
- (2) 「注意報」「警報」「避難勧告」等、気象庁や自治体が発信する情報を正確に理解できるようにする。
- (3) SNS等の投稿目的に、興味本位で河川に近付かないことを理解できるようにする。

3 訓練の実際

【想定】
 ① 隅田川の水位が上昇し、氾濫の可能性が高まる
 ② 区内全域に避難指示

	時間の推移	生徒の動き	◎支援・留意点 ■評価
事前指導		<ul style="list-style-type: none"> ○過去の水害において、河川の水位が上昇後、どのような時間的な経過をたどり氾濫や堤防の決壊に至っているかを理解する。 ○SNS等で情報発信しようとする興味本位で河川に近付くことで命の危険にさらされることを理解する。 ○「注意報」、「警報」、「特別警報」や「避難勧告」、「避難指示（緊急）」の意味を理解する。 ○荒川区が作成するハザードマップを活用し、学校、自宅などの生活圏内が、浸水する可能性があることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎避難指示が出てからの避難ではなく、水位などのその他の情報にも細心の注意を払い、自らの判断で避難させる。 ◎どのような状況でも河川に近付かないことを徹底させる。 ◎各種警報は、気象庁によって地域ごとの基準に基づいて発令されること、「避難勧告」や「避難指示（緊急）」などは各自自治体で発令されることを押さえる。 ◎気象庁や各自自治体からの発令を的確に収集しなければならないこと及び最新情報の確認についてスマホ等を有効に活用させる。
避難訓練	<ul style="list-style-type: none"> ○避難勧告の発令 ○放送による避難の指示 	<ul style="list-style-type: none"> ○放送をよく聞き、教室の後方に整列する。 ○校舎4階体育館へ避難する。 ○校舎4階体育館で整列する。 ○講評を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎管理職が校内に留まらせることを判断し、放送で避難を指示する。 ◎担任は、人員を確認し、間を空けず、素早く避難させる。 ◎担任は、管理職に報告する。 【報告事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・学年、クラス ・在籍者数、出欠状況 ・避難状況（けがの有無等） ◎講評では、今回の避難訓練において判断が必要であったときやその内容、また、他にも想定される場合等を話し、生徒が状況に応じて自らの判断で避難できるように促すとともに、SNS投稿目的などで撮影しようとして河川に近付かないことを理解させる。
事後指導		<ul style="list-style-type: none"> ○自身の行動を振り返るとともに、過去の事例から、避難指示（緊急）の有無に関わらず身を守る行動をとることの大切さについて改めて確認する。 ○水害をもたらす台風が東京都に上陸すると想定し、具体的な行動について考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■気象庁から台風上陸の予測が出た際における、場所や状況に応じた適切な行動について理解している。

学校における安全教育

必ず指導する基本的事項

計画

実行

評価

改善

幼稚園

小学校

中学校

高等学校

特別支援学校

生活安全

交通安全

災害安全

避難訓練

安全教育の実践事例

参考資料

関連する法規等学習指導要領等